



うしくり通信



児童生徒の運動器検診



学校保健安全法施行規則の一部改正に伴い、平成28年4月から学校検診の「児童生徒等の健康診断マニュアル」に「**脊柱および胸郭の疾病および異常の有無、並びに四肢の状態**」が追加されることになりました。

特に「四肢の状態(運動器・整形外科検診)」に関して初めて実施される検診項目となり、整形外科医以外の学校医や養護教諭など学校現場の関係者から、運動器の観察の参考に供するような具体的な方法の提供の要望が寄せられています。

脊柱側弯の有無の観察(図1・2)

①立たせて正面と背面から、肩の高さと肩甲骨の高さ、出っ張り、ウェストラインの左右差の有無

②前屈させ(両手掌を合わせて左右差が生じないように、両足の中央に下垂させる)背中の肋骨の高さ、腰の高さの左右差、脊椎の柔軟性と痛みの有無

上肢の可動性や痛みの観察(肩関節、肘関節)(図4)

①肩関節挙上で肘を伸展させ、上腕が耳につくか否か

②肘関節の伸展・屈曲・回外・回内の左右差と痛みの有無

歩行の観察と片脚立ちテスト(図5)

①入室時の歩行の異常と骨盤傾斜の有無

②片脚立ち5秒以上可能かどうか(左右ともチェック)

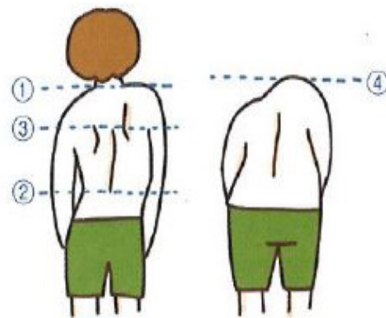
股関節・膝関節・足関節の可動性の観察(図3)

①膝下の隆起の痛みの有無

②つま先を軽く開き、両足を肩幅程度とし、腕は床と平行に挙げ、足底を接地したまましゃがみ込みが可能かどうか

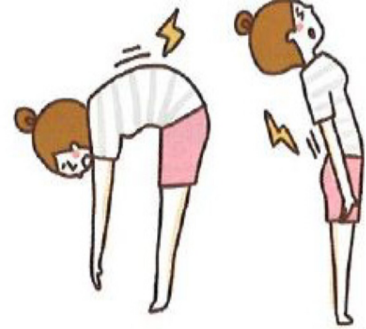
1

背骨が曲がっている。後ろから見ると、肩の高さ(①)やウエストのライン(②)、肩甲骨の高さ(③)がちがう。おじぎをする(前屈姿勢)と、背中の出っ張り(④)が左右で違う。(下図)



2

体を反らしたり曲げたりすると腰に痛みがある。おじぎをしたりかがんだり(屈曲)、そらしたり(伸展)したときに、腰に痛みが出る。(下図)

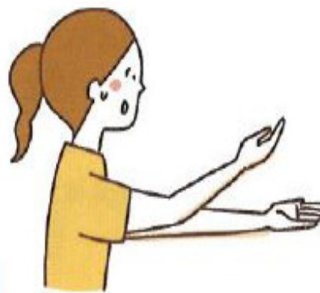


3

うでやあしに痛みのあるところがある。特に、ひじやひざ、かかるとに痛いところがある。

4

うでやあしに動きの悪いところがある。うでを伸ばすと、片方だけまっすぐ伸びない(または最後まで曲げられない)ことがある。(上図)ひざを曲げ伸ばして、うまく曲げられないことやまっすぐ伸びないことがある。



5

立ち方や歩き方がぎこちない。立つと片方に体や骨盤が傾いたりする。(上図)片脚立ちするとふらつく。



以上のチェックを内科検診と一連に行うのは当初は大変煩雑で現場に多少の混乱をもたらすかもしれませんが、一連の動きの中で観察できることなので、被験者の方も了承のうえ検診をお受けください。
事前に家庭で予行演習をしておくことで検診が正確にスムーズに行えるので、事前の準備が望まれます。